

校種
中・高・特中・特高
受験番号

④ 中学校・高等学校 国語 解答例



6点	6点	6点	6点	3点	3点	3点×2	1点×4							
(八)	(七)	(六)	(五)	(四)	(三)	(二)	(一)							
<p>(例) デジタル革命や映画によって(紙の本)が危機にさらされているように感じさせるが、同時に(紙の本)の力を人びとが発見しなおす機会になったということ。</p>	れ	き	(例)物	と	映	(例)く	腰	(例)周	ゲーム	視覚 助動詞「ようだ」の連用形の一部 形容動詞「堅固だ」の連用形の一部	b	a	④	①
	る	の	語	葛	像	タ	を	囲	SNS インターネット 携帯電話 映画(無声映画)		衝撃 頭著	② ③	畳 裏腹	
	も	自	の	藤	に	読	イ	据						の
	の	分	内	す	魅	書	プ	え						状
	。	自	容	る	せ	タ	。	、						況
		身	こ	ら	イ			話						況
		や	だ	と	れ	プ		を						を
		状	け	。	た	の		最						認
		況	で		一	人		初						識
		ま	な		視	間		か						し
	で	く	(47字)	覚	一	(44字)	ら	、						
	も	、		型	で		最	事						
	体	本		人	い		後	件						
	験	を		間	る		ま	の						
	と	読		一	の		で	記						
	し	ん		と	か		た	録						
	て	で		な	、		ど	の						
	記	い		る	ま		っ	な						
	憶	る		の	た		て	か						
	さ	と		か	は		い	に						

校種	中・高・特中・特高	受験番号	
----	-----------	------	--

④ 中学校・高等学校 国語 解答用紙



3点	5点	3点	1点×2	2点×2	3点
(六)	(五)	(四)	(三)	(二)	(一)
<p>(例) 博打に、地蔵に会わせると言われてだまされ、じぞうという子どもに会わされたにもかかわらず、その子どもが地蔵菩薩であると信じて疑うことなく、夢中になって拝んだという尼の行動。</p>	<p>(例) 助動詞「ぬ」の上の語の活用形に注目し、未然形であれば、打消の助動詞「ず」の連体形、連用形であれば完了の助動詞「ぬ」の終止形である。 しかし、今回は、上の語「裂く」が力行下二段活用であるため、未然形と連用形の形が同じ「裂け」となる。そのため、ここでは「ぬ」そのものの活用形が何であるかによって見分けると良い。「ぬ」が終止形であれば完了の助動詞で、連体形であれば打消の助動詞である。「裂けぬ」の「ぬ」は、係り結びではないことから終止形であるため、ここは完了の助動詞である。</p>	<p>(例) どうしてうちの子どもを見ようと思うのだろうか。</p>	う	き	<p>(例) 尼が、博打が地蔵に会わせてくれたことについてうれしと感じている。</p>
			い	え	
				作者から地蔵菩薩への敬意	

校種
中・高・特中・特高
受験番号

④ 中学校・高等学校 国語 解答例



1点×4	(一)	a	かつて	b	いなや(と)	c	すでに	d	いわゆる
4点	(二)	<p>(例) あなたはまだ黄絹幼婦外孫壘白の八字がどういう意味かを言っではいけない。</p>							
1点×2	(三)	①	令 <small>ム</small> <small>ニ</small> 脩 <small>ヲシテ</small> 別 <small>ニ</small> 記 <small>セ(サ)</small> <small>レ</small> 所 <small>ヲ</small> 知 <small>ル</small>	②	<p>(例) 自分の答えと楊脩の答えが同じかどうかを、後で確認したかったから。</p>				
3点	(四)	<p>(例) 曹娥の碑文(表面)は、すばらしい言葉(名文)であるということ。</p>							
5点	(五)	<p>(例) 「有知無知三十里」の意味について</p> <p>楊脩は曹娥の碑の裏面に記されている八字の意味をすぐに理解した↓有知(知恵のある者)</p> <p>魏武は曹娥の碑の裏面に記されている八字の意味を理解するために三十里の距離を必要とした↓無知(知恵のない者)</p> <p>三十里(十三キロメートル)↓距離がある ←</p> <p>意味 知恵のある者となし者との差がはなはだしい。</p>							

校種
中・高・特中・特高
受験番号

④ 中学校・高等学校 国 語 解答例

四

(中学校受験者のみ解答すること)

2点×5

(一)	
d	a
う	せ
e	b
す	し
	c
	く

6点

(二)
<p>(例) 2学年では、地域社会の中で見聞きしたことや、テレビや新聞等を通じて伝えられる社会生活全般から題材を求める。情報収集は図書館、公共施設などを利用して幅広く収集したり、インタビューやアンケートで当事者の声を集めたりすることが考えられ、想定していなかった情報に出会うなどした場合はそれまでの考えを改めたり検討したりすることが重要である。集めた材料の整理には、目的や意図に応じた観点を設け、比較、分類、関係付けなどを行うことが必要である。</p>

4点

(三)
<p>(例) 「第一学年」のウの「根拠を明確にしながら」では、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことを指導する。</p> <p>それを受け、「第二学年」のウの「根拠の適切さを考えて」では、書こうとする根拠が自分の考えを支えるものであるかどうかを検討し書くことを指導する。</p>

校種	中・高・特中・特高	受験番号
----	-----------	------

④ 中学校・高等学校 国語 解答例

五

(高等学校受験者のみ解答すること)

2点×5

(一)	d	a
	か	あ
	e	b
	き	え
		c
		さ

4点	(二)
	<p>(例)情景の豊かさや心情の機微を読み手に想起させる表現が多く含まれているため、これらの表現から、現代に生きる我々と共有できるものはあるか、また現代に生きる我々にとって、理解が難しいものがあるかなどの視点に立って読んでいくことが求められている。</p>

6点	(三)
	<p>(例)「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」に示した資質・能力がバランスよく育成されることを重視し、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図ることができ、生徒の実態に応じた適切な教材を選定することが大切である。</p>